

第5回 岡崎市スポーツ推進計画策定委員会 議事録

日 時：令和2年10月20日（火） 10：00～11：15

場 所：岡崎市役所 東庁舎2階 大会議室

出席者：（委 員）堀越哲美委員（会長）、上原三十三委員、廣美里委員、三井政昭委員、
杉山まゆみ委員、土赤光宏委員
（事務局）社会文化部 手嶋部長
スポーツ振興課 山田課長、高木副課長、平松係長、音羽係長、稲吉係長
小川主任主査、波田野主査、野田主査、西田主事
市民協働推進課 内田主事、林主事
一般社団法人地域問題研究所 春日俊夫

傍聴者：なし

資 料：次第

- 資料1 第2期岡崎市スポーツ推進計画（案）
- 資料2 今後のスケジュールについて
- 資料3 スポーツ施設配置整備方針見直し業務スケジュール（案）

1. あいさつ

堀越会長（内容省略）

手嶋部長（内容省略）

2. 議題

審議事項

第2期岡崎市スポーツ推進計画（案）について

・事務局より資料1を説明。

＜成果指標について＞

杉山委員 ・目標を高く設定するのはよいが、スポーツをする人が増えるとスポーツ施設もいっぱいになる。スポーツ施設の充実も検討した上で目標を掲げるべき。

堀越会長 ・スポーツ実施率を上げるためにはスポーツの範囲を拡げて考えていくことが必要だと思う。日常的にできるものもスポーツとして捉えていくべきだろう。

三井委員 ・スポーツ実施率位は年代によるばらつきもある。若い人ほどスポーツをしていない状況であり、この年代にあわせた施策をやれば、決して高い目標ではないと思う。

堀越会長 ・若い世代に対する施策は必要である。

廣 委 員 ・65%という国や県の目標値に合わせることも大切だが、高過ぎて無理と市民に思われることが懸念される。岡崎市では計画の目標を国や県の数値に合わせることは多いのか。

- 事務局 ・本市の他の計画で国や県の目標にあわせているものが多いかは資料がないためわからない。スポーツ実施率の数値については、国と本市では調査手法が違っているということも影響していると考えられる。その点も踏まえてご審議いただきたい。
- 廣 委 員 ・スポーツの捉え方の違いもあると思う。些細な運動でもスポーツであるという意識付けが必要であるため、しっかりとPRしていく必要がある。
- 事務局 ・スポーツの捉え方を広げるため、25 ページの成果指標の説明にスポーツとして捉える範囲を補足したらどうか。
- 堀越会長 ・よい提案だと思う。
- 土赤委員 ・難しい目標ではあるが、国や県とあわせて 65%を目指すということであれば、それでよいと思う。
- 上原委員 ・14 ページの岡崎市の年代別のスポーツ実施率のグラフを見ると、70 歳代で低くなっており、国の傾向と異なっている。これはスポーツの捉え方に違いがあることも考えられる。未実施者の中にはスポーツイコール競技と思っている方もいると思う。例えば、スポーツの意識が高いと 15 分身体を動かしただけではスポーツにならないと考えてしまう。そういう人もいるのではないか。軽い運動なども幅広くスポーツとして捉えるという啓発もしていけば 65% という数値は決して難しい目標ではないように思う。
- 堀越会長 ・委員から様々な意見をいただいた。数値目標はこのままでよいが、スポーツの捉え方を広げるなどの記載を 25 ページの成果指標の説明に追加する。

＜計画のスローガン、基本方針について＞

- 三井委員 ・スローガンは理念になると思うが、「未来」という言葉はおもしろいと思う。個別の施策が、岡崎の未来、活性化、元気にどれだけつながるか、内容が伴っているのかとを感じる部分もあるが、10 年という長い計画期間を考えれば大きく捉えるというのは面白いと思う。
- 廣 委 員 ・このスローガンは、将来をみんなで考えるということも伝わり、エネルギーも感じる。愛知県にはBリーグのチームが3つあり、先日豊橋に観戦に行ったが、体育館で飲食しながら、カフェバーのような雰囲気だった。豊橋の地元の食べ物なども紹介されており、これが将来のスポーツ観戦の姿だと思った。西尾市も女子バレーボールのデンソーエアリービーズと連携しており、市民とバレーボールが一体的になって盛り上がっている。岡崎市でもスポーツと地元産業のタイアップにつながっていく良い表現だと思う。
- 杉山委員 ・未来という言葉に希望を感じる。社会情勢の変化で不安に感じることも多いと思うが、スポーツをすることによって新しい未来を拓いていけるという表現でよいと思う。
- 土赤委員 ・わかりやすく、元気をを感じる。よいと思う。
- 上原委員 ・すぐに頭に入ってくるフレーズなのでよいと思う。「スポーツで未来を拓く」

の「拓く」という表現に力強さを感じる。

堀越会長 ・「未来」にはサステナビリティ、SDGs にもつながるのでよいと思う。このスローガンでいくことにする。

<施策の方向性について>

廣 委 員 ・25 ページ（3）に「市民に広く親しまれている競技がある、岡崎市固有の競技種目がある」と書いてあるが、具体的に何の競技のことを指しているのか。

事 務 局 ・ひとつはアーチェリーを考えている。モンゴルのキャンプやアーチェリーの強豪校である愛知産業大学、オリンピックメダリストの蟹江選手の存在など、他の自治体と比較してアーチェリーが盛んである。アーチェリーを岡崎市の個性としてまちづくりに活かしていきたい。もうひとつバレーボールも想定している。岡崎市出身の海外で活躍する選手もいて、Vリーグに岡崎市出身の選手がいると聞いている。アジア競技大会でも岡崎市がバレーボール会場になると聞いている。アーチェリーやバレーボールをまちづくりに活かしていきたい。

・アジア競技大会では、岡崎市ではバレーボールとアーチェリーが開催される予定である。他に追加種目があれば会場になる可能性もある。

堀越会長 ・ビジネスパーソンに対して考えている施策はあるか。できると面白いと思う。

事 務 局 ・今年度を実施する予定でできなかったが、大学生と若者会議を開催して、社会人になってもスポーツを続けられる環境づくりについて議論しようと考えていた。参考事例としては、スポーツ庁のプロジェクトである「FUN WALK PROJECT」など、徒歩通勤や自転車の活用推進があげられる。

堀越会長 ・街歩きなどは多様な場所ですでできるようになるとよいと思う。

上原委員 ・イベントなどとの連携はとても大事である。コロナの影響でイベントなどは難しくなっているが、ICT の活用という記載があるが、ICT も活用しながら新しい形のイベントをつくっていくこと必要だと思う。

三井委員 ・4-3にある「岡崎の活性化に貢献」はとても大事である。アーチェリーなどの「〇〇のまち」は大会の会場になった時に浸透する。地元で開催すると市民が興味を持ち、観光や産業にも効果があるので、大きな大会は岡崎市にとってチャンスであり、活性化に貢献させるということが大事である。

土赤委員 ・スポーツ実施率 65%に向けて中心に取り組むこととして、市民が簡単にできること、「家族で〇〇しよう」などの呼びかけをすることがあると思うが、簡単にできることを提案することが実施率向上につながると思う。

杉山委員 ・各世代のスポーツ人口を拡大するためには、ファミリーで気軽にスポーツができる場をつくっていくことが重要であると思う。

廣 委 員 ・ビジネスパーソンへの対応として、企業にもこの目標を働きかけることも必要だと思う。工夫している企業、うまくいっている取組を表彰するなど、そういったアプローチもするとよいのではないかな。

- 土赤委員 ・小中学校の土日の部活動のあり方が変わっていく中で、教育と連携してスポーツの活発化につなげていって欲しい。
- 上原委員 ・障がい者のスポーツ実施率も国の目標に掲げられているので、障がい者も一緒にスポーツできるということも積極的に掲げていって欲しい。身近な場所のできる、ということがスポーツでは大事なので、障がい者も身近な場所でスポーツができるようになるとういと思う。
- 堀越会長 ・実施率向上には障がい者のスポーツでも指導者が大事になると思う。
- 上原委員 ・信州大学ではインクルーシブ野外教育を推進している。山間地がある岡崎市でも可能性はあるのではないかな。
- 事務局 ・岡崎市には額田に高過ぎない街から近い山があり、地元でもトレイルランなどをやる機運になっていると聞いている。交流人口の拡大が目的であるが、こういったことも考えていきたい。
- 堀越会長 ・岡崎市には多くの資源があるので、資源を発掘してスポーツにも活用するという視点も大事である。
- 杉山委員 ・岡崎市でも障がい者のスポーツ大会が実施されているが、スポーツ推進委員は関わっていない。障がい者スポーツに関する講習や指導など、そういった場が必要であり、機会を設けて欲しい。
- 堀越会長 ・連携するためには情報共有はとても大事である。ぜひ行って欲しい。
- 堀越会長 ・施策の方向性についてご審議いただいた。実際に施策として実施していくうえで、各委員から出たご意見を参考にさせていただきたい。

<重点プロジェクトについて>

- 堀越会長 ・プロジェクト1の「みんなが気軽に親しむ生涯スポーツの普及」がスポーツ推進の出発点になると思う。
- 三井委員 ・スポーツが多様化しているが、どこまでをスポーツにするかが難しい。パソコンでゲームをやることをスポーツとしてイベントで取り上げられている。しかし、それがスポーツを行うきっかけになるのであればよいと思う。閉じこもっている子どもが外に出るきっかけになる、30代の忙しい人が合間にスポーツできるということも大事である。そういった観点でも、ニュースポーツの普及活動はとても大事である。
- 上原委員 ・重点プロジェクトはいいと思う。トップアスリートに関しては、現役を終わった後に地域に戻って活動するという環境づくりにも取り組んで欲しい。選手も引退後のことが不安でありその解消は必要であるのでセカンドキャリアに関する取組も考えて欲しい。指導者育成に関係づけてもよいと思う。
- 事務局 ・引退後にアスリートの経験を地元に戻元してもらうというような視点は、重点プロジェクトの中に表現できるか検討をする。
- 堀越会長 ・重点プロジェクトにも記載があるが、世界ラリー選手権はどうなったのか。
- 事務局 ・先ほどは延期といったが、2020年は中止。2021年と2022年は愛知県で開催

することは決まっている。決定はしていないが、岡崎市で開催されるだろう
と考えている。

堀越会長 ・審議を終了した。意見が出た箇所については事務局で検討していただきたい。

事務局 ・意見を反映させて改めて提示させていただく。

3. その他

- ・スケジュールについて、事務局より資料2を説明。
- ・岡崎市スポーツ施設配置整備方針について、事務局より資料3を説明

4. 閉会

(11時15分 閉会)